

科目名	家族看護学統合実習 Family Nursing Practice III
授業形態	
標準履修年次	2年次
実施学期・曜時限等	通年
単位数	2単位
担当教員名	涌水 理恵 Wakimizu Rie 小澤 典子 Ozawa Noriko
ティーチングフェロー(TF)・ ティーチングアシスタント(TA)	
オフィスアワー等	オフィスアワーは特に定めないが事前にメール連絡をしてアポイントメントをとること 涌水 理恵 riewaki@md.tsukuba.ac.jp 小澤 典子 nozawa@md.tsukuba.ac.jp
授業の到達目標 (学習成果)	(1)複雑で対応困難な健康障害を有する患者とその家族の事例を受け持ち、高い専門性を持つ看護師の指導のもと高度な看護実践を展開する。 (2)事例に関する診断・治療に関するカンファレンスに参加し、家族員が置かれている状況を把握し、専門的な立場から意見を述べるができる。 (3)事例に関する多職種合同カンファレンスに参加し、ケアとケアの融合を目指した医療が展開されるように、特に家族員の権利擁護を踏まえたうえで、専門的な立場から意見を述べるができる。 (4)他職種との協同のために事例の診断・治療に必要な知識と技術を適用しながら、ケアとケアの視点から治療に参画することができる。
他の授業科目との関連	看護科学特別実習、家族看護展開実習
履修条件	専門看護師養成プログラム(家族看護)の受講者であること
授業概要	看護科学特別実習および家族看護学展開実習で習得した援助方法を活用して、専門的能力を有する看護師および大学教員の指導のもと、健康障害を抱えている家族員と家族に対して健康障害査定や家族査定の能力および看護介入能力を養い、健康障害を有する患者とその家族の抱えている問題への効果的な看護ケアの実践能力を高める。特に、他職種との協働を中心に、診断・治療に関して参画し、調整する方法を習得する。
キーワード	家族看護、専門看護師、調整と統合
授業計画	1～20(未定)(すべてを通して以下の内容を実施する)(涌水・小澤) ①健康障害を有する患者とその家族を基盤実習、展開実習と統合実習合わせて10例以上受け持ち、患者とその家族への援助を提供しながら、看護上の問題を把握する。 ②病棟におけるカンファレンスに参加し、家族看護の視点から援助の方向性について意見を述べる。 ③入院中の患者に関する多職種合同(医師・薬剤師・心理士など)カンファレンスに参加し、診断・治療の段階から家族看護の視点に立った援助の方向性について意見を述べる。 ④家族看護の視点に立った援助実施のために、多職種間(医師・薬剤師・心理士など)の調整を計画する。 ⑤計画をした他職種間(医師・薬剤師・心理士など)の調整を実施する。 ⑥実施した他職種間(医師・薬剤師・心理士など)調整を評価し、必要であれば計画を修正する。

<p>学修時間の割り当て及び授業外における学修方法</p>	<p>実習(30時間) 数事例への患者とその家族への支援を、専門的能力を有する看護師および大学教員の指導のもと、実施する。授業外ではレポートや計画についての書類の作成や修正はもちろんのこと、実習施設内外の家族看護に関する研修会や講習会に積極的に参加し、家族看護の知識を得るとともに人的交流を深めることが望まれる。</p>
<p>成績評価方法</p>	<p>到達目標の達成度を平常点として評価する。 到達目標を指導に従って大旨達成できればC以上と判断する。 到達目標を指導に従って大旨達成できていると判断されればB以上と判定する。 到達目標の1～3について優れていると判断され、4～5を行っているとは判断されればAと判定する。 到達目標の1～3について非常に優れていると判断され、積極的に4～5を行っているとは判断されればA+と判定する。 評価を実施するに当たり、実習指導者の評価を十分加味する。</p>
<p>教材・参考文献・配布資料等</p>	<p>吉川悟:システムズアプローチのものの見方. ミネルヴァ書房. 1993.P22-56 石原邦雄:家族と生活ストレス. 放送大学教育振興会. 2000. P77-107 野末武義:家族ライフサイクルを活かす-臨床問題を家族システムの発達課題と危機から捉え直す. 精神療法. 2009.Vol35(1).P26-33 モニカ・マックゴードリック:ジェノグラムのはなし. 東京図書株式</p>
<p>その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)</p>	<p>やむを得ず欠席する場合には事前に必ず申し出ること。やむを得ず欠席する場合には事前に必ず申し出ること。30分を過ぎた遅刻は欠席とみなす。</p>